

戦後〇十年談話は、なぜ繰り返し出されるのか？

石破首相が戦後八十年談話を出そうとして、結局、自民党内の反対の中で、結局閣議決定のない「所感」という形になったようです。

インターネットの情報番組の中で、「そもそも十年毎に「談話」なるものが出されていることは他国にはない」という話が出ていました。事の真偽は確かめてはいないのですが、なぜ、こんなことがなされているのでしょうか？

なぜ、繰り返し出されるのか？

最初の「戦後 50 年村山談話」は、自社さ政権という連立政権のしぼりはあったにせよ、それなりの完成された談話だったのです。連立政権の祭り上げられた（このこと自体の問題はここではコメントしません）社会党の党首が首相の時でしたから、戦後ほとんど政権を担った自民党政権が、それを上書きするという意味で、パフォーマンス的に「戦後 60 年小泉談話」が出されたと理解出来ます。ですが、そもそも、首相の地位にあるひとの談話だけでなく、官房長官談話とかも出ています。これは、そもそも「村山談話」の「反省と謝罪」を政権与党たる自民党がきちんと受け入れず、のみならず、党内からそれをリセットする発言が繰り返し出ていたからです。それは、過去の戦争と植民地支配の歴史を肯定化するような発言や、「良いこともあった」とかの話も出ていて、それが右派の一般議員のみならず、自民党役員（麻生太郎当時副総理・副総裁）からも出ていたのです。そして、一部野党を巻き込んだ靖国集団参拝なども、過去の「反省と謝罪」をリセットすることだったのです。ですから、口だけ・表面的だけでも、謝罪の言葉を繰り返さざるを得ないのです。

反省なき謝罪

そもそも、これは過去の戦争と植民地支配の反省が、政権与党たる自民党の中できちんと合意形成されていないという問題です。安倍政権の時に、道徳の教科化がなされましたが、「そもそも謝罪とは何か」という小学生で学ぶようなことが、自民党の政治家たちが理解出来ていないのです。自民党の今回高市総裁の下で、役員になった新藤議員が以前テレビで、「自民党内ではいつまで謝ればいいんだ、という意見がある」ということを言っていました。そのうち、自分の意見としてそれを言っていたのです。例えば、車や飛行機で事故を起こして遺族へ謝罪しているときに、こんな発言をしたらアウトです。それまでの謝罪のリセットどころか、新たな大事件です。

謝罪は反省の下で始めて機能するのです。いくら謝罪を繰り返しても、本心で謝罪していない、すなわち反省していないと謝罪にはならないのです。政治家たちは、パフォーマンスとしての謝罪が得意です。時にはパフォーマンスで土下座などをしたりするひともいるのです。

基本的な「道徳」もない政治家たちが政治を担い、しかも政権与党を担っているという悲喜劇なのです。

最悪の「安倍談話」

今回、石破談話が出る・出ないという議論の中で、過去の談話の話が出て、その中で、「安倍談話も評価できる面がある」というとんでもない意見が出ていました。わたしは既に、安倍談話批判を書いてますが(註)、政治家は自分が思ってもいないことを発言したり、平気で嘘をつける(安倍元首相が 118 回の虚偽答弁をしたことが記録されています)、およそ自分で文書を書かないで(したがって、反省などしないで)、他者に書かせた文を読み上げているだけということができるのです。

そもそも、「安倍談話が評価できる」とか言えるひとは、論理的発想をしないひとか、話の脈絡を押さえ損なっているのです。

わたしは手話を勉強しているときに、ある読み間違いの有名なエピソードの話を知りました。ある日本手話話者が「手話は聴者が教えるのが良い」とかという(日本手話話者には手話はろう者の言語だから教えるのはろう者が良いに決まっているということに反する)話をした、とかいう話を伝え知った別の日本手話話者が、「一体どうしてそんな話をしたのか」と本人に問い合わせたのだそうです。そうしたら、日本手話には「非手指表現」(手や指の動きだけでない表現)というのがあるのですが、それで、「手話は聴者が教えるのが良い」を手指で表現した後に、首を左右に振って(これは聴者にもジェスチャーとして通じます)否定の意を表したのに、通訳者が読み落とし、それを手話初心者の聴者が伝えたという顛末だったのです。

まさに、安倍談話はこういう類いの話なのです。政権で繰り返し形だけの「謝罪と反省」と繰り返し、それを党内の「不規則発言」や靖国参拝でリセットしたことと同じなのです。安倍談話の本音は、「日本では、戦後生まれの世代が今や人口の 8 割を超えています。あの戦争には何ら関わりのない私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません。しかし、それでもなお私たち日本人は世代を超えて、過去の歴史に真正面から向き合わなければなりません。」というところにあり、「若者世代に反省を引き継がせない」ということが核心なのです。それを表面的には否定する文言が続いていますが、これは前述した極右政治家新藤議員の「いつまで謝ればいいんだ」という過去の「反省と謝罪」のリセットなのです。

そのようなことも読み取れないで、政治評論家とかジャーナリストとか学者とか自称するひとがいる悲喜劇をどうとらえればいいのでしょうか？

そもそも政治家の発言の嘘と真実をとらえる観点が民衆の側に必要なのです。そのような思いで民衆のひとりの念いとしてこの文を書きました。

(註) 「アベ談話批判」

[https://771033e8-ab2b-4e5b-9092-](https://771033e8-ab2b-4e5b-9092-62a66fd59591.filesusr.com/ugd/6a934e_456e935796f649c69042dd0690c1cfac.pdf)

[62a66fd59591.filesusr.com/ugd/6a934e_456e935796f649c69042dd0690c1cfac.pdf](https://771033e8-ab2b-4e5b-9092-62a66fd59591.filesusr.com/ugd/6a934e_456e935796f649c69042dd0690c1cfac.pdf)

反差別資料室 C <https://hiro3ads6.wixsite.com/adsshr-3>

I.ジャンル分け文→F. 状況への発言・(a)アベ政治批判・「通信」巻頭言 + α

<https://hiro3ads6.wixsite.com/adsshr-3/e-1>

(み)

(「反差別原論」への断章) (110) としても)